

仙台市議会  
**蒼雲の会**  
 市議会活動レポート

2019年  
冬号

仙台市議会議員  
 (泉区)

<sup>あびこ</sup>  
**安孫子雅浩**

発行/蒼雲の会・編集/安孫子雅浩

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7-1

TEL 022-214-8568 FAX 022-714-2320



## 新たな任期に新たな会派で取り組みます

令和に元号が改まって今年も年の瀬を迎えます。10月は台風と大雨に泣かされました。被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げます。浸水/水防対策および土砂崩れ等危険地区の点検は新たな防災課題として取り組みます。

8月に市議会議員の改選があり、お陰様で私は6期目の任期をいただきました。ご付託いただいた皆様方の代表として、私は**泉を守りぬくために**真摯に議員活動に精進してまいり

ます。

本レポートは、改選後の新会派「蒼雲の会」として、初めてお届け致します。

先の第三回定例議会における一般質問および昨年度の決算審査委員会の質疑、また泉区への来年度予算要望を掲載致しました。

市民/有権者皆さんからのお声が、我が会派の活動の源です。

どうぞ率直なご意見ご要望を我が会派にお寄せください。

蒼雲の会 代表 <sup>あびこ</sup>安孫子雅浩 拝

## 泉区への予算要望項目(抜粋)

- 街路樹や公園樹木の適切な管理
- 通学路の安全対策、横断歩道/停止白線等の改善
- 泉区役所庁舎の再整備と敷地の有効活用
- 泉中央バスプールの一部(北部方面)移転
- 地下鉄泉中央駅周辺の渋滞対策
- 東北学院大移転後の各種対策(バス路線の維持他)
- 熊や猪など鳥獣被害対策
- 雨水配水環境の改善(配水溝の点検、雨水調整池等)
- 土砂崩れ警戒箇所の総点検
- 地域コミュニティの機能維持にむけた区役所との連携
- 住民の健康づくりの為に保健所/包括センターとの連携
- 泉総合運動場プールの再開



予算要望を泉区長に申し入れ



## ＜質疑報告＞ 令和元年第3回定例会 一般質問

時代環境は険しさ募る令和の時代に、志高く仙台市政を前に進めるべく会派「蒼雲の会」安孫子雅浩でございます。これまで約半年間、集中して地域を歩いた中で寄せられた声、考えさせられたこと等をもとに、以下一般質問を致します。(要旨抜粋)

### ひきこもり家庭の問題に対する認識

**質問** 訪問先の玄関口に立って得られる情報は少なくない。この間の世帯の状況の変化を如実に感じる事が多く、地域を構成する単位である世帯／家族の状況の変化は大きく、また、世帯の高齢化、独居化、孤立化が進んでいる現況に触れる場面も多く、地域コミュニティが置かれている状況の険しさを実感している。

また、高齢の親と独身の息子や娘が同居している、いわゆる 8050 問題／7040 問題が身近にあることも認められた。

内閣府の調査から推計すると、実に70人に1人はひきこもり状態にあるということになり、この推計を本市に当てはめれば1万人前後の、現役世代ひきこもりが本市にもいるということになる。80代、70代の親たちは、晩年に楽することも無く不安な日々を過ごしており、その家庭では、**父母の健康問題や経済的な困窮、また住環境の悪化**など複数の課題にも直面している。

令和の時代に、ひきこもり家庭問題は、本市でも看過できない市政課題の一つになるものと考えているが所見を伺う。

**答弁** ひきこもりの長期化は、ご本人の就労や社会経験など自己実現の機会の喪失にとどまらず、社会的な損失にもつながるなど、大きな課題であると認識している。今後は、ひきこもり地域支援センターなど専門機関が、各区障害高齢課や地域包括支援センター等と協働してひきこもり支援にあた



る仕組みを充実させ、地域において一貫した支援が提供できるよう努めてまいりたい。

### 地域コミュニティにおける孤立化の課題

**質問** 今後の地域コミュニティ運営における中心課題の一つは、ひきこもり家庭も含めた世帯・住民の「孤独／孤立化」の抑止・防止であると考えているが市長のご見解を伺いたい。

**答弁** 社会状況や個人意識の変化により、単身世帯、高齢者世帯、ひとり親世帯の割合が増加して、地域とのつながりの希薄化、孤立化の懸念も指摘されてきている。世帯によって抱える事情はひきこもりの問題を含めて、さまざまあるものと認識している。引き続き、市の関係部局、並びに外部の関係団体とも連携して、誰もが生き生きと暮らせる地域社会の実現を図ってまいりたい。



## 市民の健康づくり

**質問)** 「市民意識調査報告書」では、今後特に力をいれていくべき施策で高かったのは、「高齢者の暮らしを支える環境づくり」である。住民が最も多く口にする言葉は“健康”である。

本市では市民の健康づくりの推進に、「第二期いきいき市民健康プラン後期計画」を現在進行中であるが肝心の生活習慣病予防では、歩数（歩く数）に改善が必要となっている。生活の自立面において**足腰の健康**は最も大切な点である。

市民健康プランにおける歩きやすい環境づくりとは、段差や根上がりの無い歩道管理、また適切な除草や安全な健康遊具が設置された公園であると思う。

人生百年時代に適う市民の健康づくりには、ソフト面ハード面双方の取り組みが連動していかなければならない。その決意を伺う。

**答弁)** 生活習慣病を予防し、健康寿命を延伸するには、日常生活の歩数増加などの運動習慣を身につけ実践することが効果的であり、そのためには、運動しやすい環境づくりも重要。歩道や公園の整備、管理など、関係機関等との連携強化を図り、ソフト・ハード両面での環境整備を進めることで、今後も市民の健康づくりを推進してまいりたい。

## 松森工場の総括

**質問)** 70歳前後のシニア世代の健康志向には目を見張るものがある。

私の地元のスポパーク松森も同様で、常に駐車場はいっぱい。同施設は、松森工場の余熱を利用し、会費が他の民間施設よりも安いことも人気の要因。その松森工場は、

私が初当選した平成11年の選挙時には、工場建設の是非を巡って当時の藤井黎市長並びに郷湖健一議員は、その渦中において相当に苦労されていた姿は今も思い出される。松森工場は現在、杜の都の未来を担う小学児童の環境学習の場としても多く利用され、また3.11大震災時には、その焼却能力の高さにより他の被災自治体の要請にも応えている。

松森工場が計画されてから今日までの20年、その総括を伺う。

**答弁)** 本工場の排ガス中のダイオキシン類は、国の規制基準の10分の1とし、これを大きく下回る値で稼働するなど、環境負荷の低減にも努めてきた。また、ごみの減量やリサイクルなどの環境教育の場として、市内の3分の2の小学校の児童を受け入れるとともに、余熱利用施設であるスポパーク松森も年間約38万人の多くの方々にご利用いただいている。

## 松森工場計画時の認識・評価

**質問)** 反対運動の渦中にありながらも本市の将来を見据えて工場建設を決断した、第31代藤井市長の政治姿勢を郡市長はどのように評価されているのか伺いたい。

**答弁)** 建設計画当時、全国的にダイオキシンへの問題意識が高く、ごみ焼却施設の建設に対する反対運動が起きており、将来を見据えた重要な政策決定にあたっては、市民のご理解を得るよう十分な説明を尽くすことが肝要であると考えさせられた事案だった。

当時の藤井市長は、市民の皆様に対して、施設の必要性、安全性について丁寧に説明していくことを基本姿勢とし、事業着手を



一時見合わせて、説明会を追加実施するとともに、建設後も運転状況について積極的に公開することとしたなど、数々のご苦労があったと聞いている。

このような判断があって、今日の安定的なごみ処理体制が確保されたものと、考えている。

## 泉総合運動場屋外プールの再開検討

**質問** 現在本市には50メートルプールはない。唯一、泉総合運動場にあったが、昨年の夏半ば以降利用休止のまま。このプールは6月から9月まで屋外で泳ぐことができ、週末や夏休み中は多くの市民や家族連れが利用していた。本プール施設の再開に向けた検討状況を伺う。

**答弁** 当該施設は、昨年7月下旬に50mプールに亀裂が発生したため利用を休止しているが、その原因はプール本体の内壁材の経年劣化と確認したことから、再開のためにはプール本体を入れ替える必要がある。入替工事にあたっては、既存基礎及び杭の強度や健全性の確認が前提となるほか、築38年を超え老朽化が進む循環ポンプ等の設備更新やプールサイド及び管理棟の改修など、施設全体の大規模改修をあわせて検討する必要がある。

## 新・交通プランの策定

**質問** 特に多く問われるのは、移動手段の確保である。いわゆる買い物難民、通院難民等交通弱者への行政の思いやりが問われている。病院や買い物に行く足が無くなる不安に応えられなければ、高齢ドライバーは運転免許を返上できない。今年度より、都市整備局内に交通政策担当局長を配置

し、新たな都市交通プランの策定に向けた交通政策推進協議会が発足している。私が注目するのは、**地域交通**による移動手段の確保、路線バスの活性化と持続可能性の確保である。担当当局の所見を求めたい。

**答弁** 新・交通プランについては、今後10年間の本市の交通分野の基本方針となるものであり、少子高齢化の進展を見据え、公共交通を中心とした持続可能な交通体系の構築をさらに推進していくことが重要と考えている。そのためには、鉄道にバスが結節する交通体系を一層充実させていくことに加え、鉄道を利用できない地域における路線バスの活性化や、地域の実情に応じた移動手段の確保に向けた取り組みなどが必要と認識している。

## 地域交通の他地域での検討状況

**質問** 現在、宮城野区燕沢地区で地域乗り合いバスが試験運行中だが、他の行政区においても地域交通の試験運行を求める。検討状況はどうか。

**答弁** これまでの取り組みを検証しつつ、その他の地域においても、実情に応じた移動手段の確保に向け、検討を進めるための専門家を派遣するとともに、話し合いにも参加し、地域主体の取り組みを支援してまいりたい。

## 仙台－バンコク線を契機とした交流拡大

**質問** 仙台バンコク定期便が6年ぶりに再開する。かつて梅原市長時代の平成18年秋、福島市、山形市と本市による東北観光物産展をバンコクで開催し、柳橋邦彦議長公式訪問団に私も同行した。今回のバン



コク便の再開は、バンコク経由でインドシナ半島諸国に繋がる意味でも今後への期待は大きなものがあると考えます。それらインドシナ半島諸国との今後の人と物の交流が、本市のみならず東北地方にも広がる可能性も多く有していると考えます。当局の見解を求めたい。

**答弁)** 仙台・東北が東南アジア有数のハブ空港であるバンコク・スワンナプーム空港と直行便で結ばれることにより、タイの周辺諸国を中心に、広範な地域との間で、観光のみならず経済交流など多様な可能性が広がってくるものと認識している。このため、今般の補正予算案においては、幅広い地域からの乗り継ぎ利用者を想定し、タイ国際航空と連携してASEAN及びオーストラリアからのメディア招請を行うなど、仙台・東北のさらなる情報発信を予定している。

### 実沢小学校の来年度以降の在り方

**質問)** 明治6年1873年に開校し146年の歴史がある実沢小学校は、今年度の在籍児童は二つの学年に5名であり、児童たちは実沢小に登校するものの、学校からタクシーで根白石小へ移動し、根白石小の児童と一緒に授業を受けて、実沢小には日中児童の姿は無いという変則的な学校運営が行われている。

市内屈指の伝統校だけに学区住民の小学校に対する想いの深さは、私が推し量れるものではないが、学校の主役は児童であり児童にとって最適な学習環境を確保する観点を第一に、実沢小のあり方は判断されるべきである。

教育委員会では、来年度以降の同校につい

てどのように検討しているのか伺う。

**答弁)** 今後も児童数が大きく変動する見込みがないことから、9月に保護者や地域の皆様と教育局とで構成する地域懇談会を設置し、今後の学校の役割なども踏まえながら、地域の皆様と話し合いを進め、児童のより良い教育環境の確保に努めてまいりたい。

### 外国籍の子どもの学習支援等

**質問)** 先月27日文科省は、外国籍の子どもの就学実態に関する調査を公表した。それによれば、本市には193人が不就学の可能性があるとなっている。今後は本市として、小中学校における外国籍子弟への学習環境のあり方が問われていくものと考えます。外国籍子弟への就学誘導および履修において、教育委員会と当該学校との責任範囲はどのように整理されているのか伺う。現在、個々の小中学校の現場では、対応すべき課題は多く、本件については教育委員会の下での一括した対応が求められていると考える。教育長の見解を伺いたい。

**答弁)** 現在、日本語指導が必要な児童生徒が多く在籍している小中学校8校に日本語指導教員の加配配置をし、特別の教育課程を編成するなどして指導を行っている。また、本市の事業として指導協力者を申請のあった学校に派遣し、母語を通して円滑な学校生活を送れるよう支援するとともに、授業での通訳や日本語指導等を行っている。今後さらに外国籍の子どもの在籍が増えることが予想され、教育委員会としても仙台観光国際協会(SenTIA)等とこれまで以上に連携を密に図り、具体的な支援を継続していきたい。



## < 質疑報告 > 決算審査委員会

決算審査委員会の全体会において、会派を代表して質問に立ちました。その概要は以下のとおりです。

### 行革推進プラン2016 30年度実績報告について

①**質問** 総務局に伺う「定員の適正管理」令和の時代は、IT化など機械化の導入による効率化が図られることにより、人員はより縮減できると云われている。しかし一方でこれからは、福祉部門や教育、災害対応等において反対に職員の適正配置が強く求められる時代になると考えるがいかがか。

**答弁** 定員抑制に向けた不断の取り組みを推し進めながら、喫緊の行政課題に適切に対応するための必要な人員も確保し、適正な定員管理に取り組んでまいりたい。

②**質問** 財政局に伺う「市税の収入確保」徴収率の向上を高く評価する。さらに、普通徴収や固定資産税への取り組みを進めていくようだが、徴収率100%を目指した当局の取り組みを期待したいが。

**答弁** ことし4月より新たに地区担当の班体制を導入し、担当職員の資質向上や進捗管理の徹底を図るとともに、AIを活用した分析など、新たな手法も取り入れる準備を進めている。

③**質問** 市民局に伺う「地域づくり職員研修の実施」では、これらの職員が研修を受けた後の現場での実践を期待したい。コミュニティ力の低下に悩む数多の地域・町内会では、担当職員の出番を待っているが。

**答弁** 地域にはさまざまな課題があることから、研修で得た知見などを実践の場で生かし、その解決に向けて地域の皆様とともに取り組むことが重要であると認識している。

④**質問** 交通局に伺う。地下鉄南北線駅のホームに立って気になるのは、タイル壁などの汚れである。東西線駅とは対照的なホームの美観であり、適切な美観の確保を求めたいが。

**答弁** 現在専門業者と現地の確認を行いながら、使用する薬剤の種類や汚れ撤去の方法について、費用面も含めたより効果的な方策の検討を進めている。

⑤**質問** ガス局に伺う。ガス局が保有する未利用地の





売却や貸付けを着実に実施することが、民営化への移行を円滑に進める上で必要でないか。

**答弁)** 今後、残っている未利用地などについては、引き続き賃貸を中心とした活用を図っていくとともに、民営化を進めていく中での整理をしていきたい。

## 財政について

### ① 財政運営の新たな視点について

**質問)** 令和時代は、多様性を許容する社会だと云われている。それは効率性の徹底や合理性の追求という、これまでとは異なる方針が行政サービスにも求められることになると思うが所見を伺う。

**答弁)** 今後、効率性や合理性だけでなく多角的な視点を一層重視するとともに、新たな時代の到来により見込まれる行政ニーズに対応した施策に予算を適切に配分してまいりたい。

### ② 大型事業と財源の確保について

**質問)** 市役所本庁舎、音楽ホール、震災メモリアル拠点、泉区役所庁舎等の整備の他、今定例会の質疑においては、都心再構築事業や子どもの遊び場施設整備、さらに県民会館跡地なども取り上げられた。これら大型事業のための財源の確保について、財政当局の見通しを伺う。

**答弁)** 本市のまちづくりの基盤を整備するための取り組みを着実かつ計画的に進めていくためには、整備手法や事業費等の精査に加え、基金や市債などを含め、財源確保の工夫を図っていくことが重要であると認識している。

## 高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額助成 1億1900余万円について

**質問)** 本市内には12カ所253戸があり、その大方の高齢者は家賃補助を受け、なお且つ生活支援員の派遣を受け生活している。

この住宅はその制度発足時には20年間の時限が設けられており。本市内でも間もなく20年を迎える物件があり。制度上の期限を前に、入居者や施設所有者からは不安の声が上がっている。今後の本市の対応を伺う。

**答弁)** 本市より先に認定期間終了を迎える他の都市の取り組みや入居者の状況などを見ながら、家賃補助や生活支援員の派遣などを含め、本市の支援のあり方について検討してまいりたい。



## 常任委員会行政視察

常任委員会は市民教育委員会に所属しました。

- 11月11日行政視察で東京都の体験型英語学習施設「Tokyo Global Gateway」を視察。お台場のオフィスビル内に昨年夏に開設。外国人英語話者が習熟度のレベル別プログラムを多数展開。英語空間の中で児童・生徒が自ら発話する機会を得る。特にアクティブイマージョン学習は興味深い。
- 浜松市の不登校対策を調査。教育総合支援センターでペアレント・トレーニング（保護者の学びの場づくり）および適応指導教室を実施。子どもとのより良い関わりか方を保護者が学び、ほめ上手な保護者になることを目指す。また、校内／校外／個別とそれぞれ不登校者への適応指導を行う取り組みを調査。不登校者1300人、外国籍子弟1300人の状況にある浜松市の先進的な取り組み事例。



浜松市議会本会議場も拝見



市内百歳以上ご長寿は580人。人生百年時代です。



市議会議員の必須道具は「草刈り機」です。



仙台バンコク間定期便が再開（10月30日）



10月5日泉区総合防災訓練（高森東小）

蒼雲の会会派室

TEL 022-214-8568 FAX 022-714-2320

E-mail : souun-no-kai@ve.cat-v.ne.jp

泉区事務所

〒981-3106 泉区歩坂町3-12

TEL 022-373-6052 FAX 022-373-6052

E-mail : abiko\_masa@i.softbank.jp

ホームページ : <http://www.abiko-sendai.net/>

あびこ雅浩 Facebook

